



医療法人社団 仁恵会

石井病院

人工透析ひ尿器科じんけいクリニック

Now

Vol.195

- Since 2008

JINKEIKAI NEWSPAPER

発行：2024.6

『在宅支援ステーション』における看護師の役割

地域医療の実現に向けて石井病院は、2024年3月18日『在宅支援ステーション』を開設しました。地域医療を担う看護師として求められる役割を果たすべく4月より地域医療連携看護師として活動しております。

地域の病院・施設やクリニックと連携し、入院前（入院時）から患者様の病状や生活状況を把握し継続的に支援していく“前方支援”が重要です。入院後は、他職種につなげていく必要があります。今まで以上に積極的に他職種との関わりを持つことになり、看護の視野が広がります。病院内の他部署のみならず、行政や高齢者施設とも連携を図ることになりますので、自然に考え方の幅や知識を広げることができます。

病棟のように患者様に直接看護を提供する機会はありませんが、患者様を支えるやりがいやスキルアップに結び付きます。他職種との連携時には調整役として看護の知識を活かし、地域住民を支える継続的なケアの実践につながっていきます。地域医療に貢献できるやりがいを感じております。

「患者様の意思決定をいかに大切に、尊重できるのか」を念頭に病棟との情報共有や調整コーディネートをしっかりと行い、患者様やご家族様が望む生活が実現できるよう支援策を考えていきます。治療と生活のバランスを考えながら最善の支援を実現し、スムーズな在宅復帰へとつながられるようにしたいと思います。

在宅療養支援病院としての役割を果たす石井病院『在宅支援ステーション』を皆様どうぞよろしくお願い申し上げます。（筆者：医療連携相談室 看護師長 井口 小百合）



在宅支援ステーション（病院東隣）

令和6年度 明石市公衆衛生協会 公衆衛生功労者表彰

受賞者 医師事務支援課 主任 赤松 香

石井病院に勤務してから医事課職員として11年、医師事務作業補助者として9年になりました。現代社会において公衆衛生にどのように貢献できたかを考えると、当院において開催される「いきいき健康塾」の準備やコロナ禍の予防接種対応などにあたり、微々たるものですが地域の皆様の健康にたずさわることができているのではと思います。

外来診療においても地域密着病院の職員として、地域の皆様に安心して通院していただけるよう日々精進を続けて参ります。

この度このような表彰を受けることができましたのは、共に働く仲間や上司のおかげです。ありがとうございました。



医師事務支援課の役割について

当院では2008年に医師事務作業補助者の配置が始まりました。

患者の情報共有・連携の強化が打ち出される中での医師の働き方改革において、医師事務作業補助者は医師の事務的な業務負担の軽減のため配置されており、当院では外来診察における検査結果等のカルテ入力や患者案内、次回予約の登録、各医師に依頼される入院証明や医師意見書、臨床調査票、診療情報提供書など年間1500件以上の書類の下書き、入院患者の退院時に必要な診療情報等の下書き準備と管理などを行っています。

また訪問診療への同行も開始し業務の範囲を広げています。取り巻く環境も紙カルテや紙作成の書類が電子カルテと書類作成システムになり、最近ではインカムの導入により受付窓口と診察室配置の医師事務がダイレクトに情報交換でき、呼び込み順の確認や不足書類の確認などで席を外す必要がなくなりました。

今後も各スタッフの知識を深め医師の負担軽減に努めたいと考えます。

（筆者：医師事務支援課 主任 赤松 香）



（カルテ入力を行う職員）





2024年3月に日本臨床工学技士会主催のバスキュラーアクセス研修会を受講しました。透析をするうえでシャントを長期的に維持していくことは必須となります。そこで今回は当院でのバスキュラーアクセス管理と患者様がご自宅ですでにいただきたい管理について説明します。

バスキュラーアクセス（以下VA）とは、Vascular（血管の）Access（近づく方法）という造語で、透析のための血管の出入り口の総称のことです。その中でも、シャント（Shunt）とは動脈と静脈の短絡（short cut）を意味し、本来、血液は動脈から毛細血管を通り静脈を経て心臓に戻ることで体の中を循環しています。これを体循環といいます。透析では1分間に200～300mL/minの速さで血液を透析装置側へ取り込み、ダイアライザーで物質交換を行い、体内へ戻す体外循環を行うため、透析導入前に、動脈と静脈を直接吻合し動脈血を静脈へ迂回させる手術を行うことで脱血と返血を可能にして透析を行っています。シャントの種類として①自己血管内シャント（AVF）と②人工血管内シャント（AVG）があります。



臨床工学技士
おおうえ しゅんすけ
大上 駿介

① 自己血管内シャント

動脈と静脈を前腕もしくは肘部で吻合し、動脈血を静脈へ迂回させることで静脈への血流を確保し駆血帯で静脈を怒張させ穿刺し透析を行います。

② 人工血管内シャント

動脈と静脈を人工血管を用いて吻合し血流を確保して、駆血帯を用いずに人工血管に穿刺し透析を行います。人工血管留置にはループ型とストレート型があります。

血液透析の長期化に伴い、シャント寿命の長期化が強く求められています。その中で合併症が生じてしまうためシャントの管理が必要となってきます。ここでは合併症の種類と管理について説明します。

1. 合併症の種類

① 狭窄

動脈と静脈を吻合するため静脈の血管内腔にストレスが生じ、内膜損傷を起し、その修復過程で狭窄が生じる場合と穿刺を繰り返すことで、内膜肥大が生じる場合があります。狭窄の種類には①血管内腔の内膜が盛りあがる内膜肥厚②血管内腔が細くなる血管収縮③静脈弁による弁性肥厚④体内のカルシウムやリン、i-PTHなどによる石灰化があります。

② 閉塞

血栓性閉塞は狭窄があり、そこに新たな病態が加わると発症します。新たな病態とは①血液濃縮（下痢、発熱、脱水）②血圧低下（過除水、心機能低下）③圧迫（ベルト止血による長時間圧迫や強い圧迫）などがあります。

③ 感染

シャント感染の原因に穿刺部感染があり、同一部位穿刺や止血不十分により皮膚バリアが破られ菌が付着するなどの原因があります。

2. シャント管理について

患者様が自宅ですでにいただきたいことは、シャント肢に手を当てスリル（血流の流れ）を確認していただくことです。通常はザーザーと振動のようなものが伝わります。スリルを感じられないもしくはドクドクとしたものが伝わりと狭窄や閉塞が疑われます。聴診器をお持ちの方は、聴診器を使って吻合部から肩の方までシャントの音を聞くことでも狭窄や閉塞が確認できます。シャント音は通常ゴーゴーやザーザーといった低い音ですが、シャントに異常があるとヒューヒューと高い音が鳴ります。

次にシャント肢の発赤、腫脹、熱感、表皮剥離と穿刺部の傷を見ることで感染兆候が確認できます。

★ 日常でシャントトラブルを防ぐためには

- ・シャント肢にかばんをかけない
- ・腕時計をつけない
- ・シャント肢での血圧測定を行わない
- ・シャント肢をぶつけない、
- ・透析終了時の止血テープは12時間以内に剥がす
- ・かゆみを伴っても掻き傷を作らないように保湿する
- ・シャント肢を清潔に保つ などです。



当院でのシャント管理は、エコー検査や透析装置によるモニタリングを行っています。エコー検査では、上腕二頭筋に沿って走行する上腕動脈をエコーで描出し、動脈波形から動脈硬化や石灰化などによる血流の乱れがない位置を確認した後に、上腕動脈血流量と血管抵抗値を測定しています。加えて、人工血管の患者様は、人工血管の血流量と人工血管と自己血管静脈の吻合部の狭窄の有無を検査しています。前回のエコー検査の結果と透析中のモニタリングの状態から医師へ報告し、石井病院での血管内治療やシャント専門病院への紹介を迅速に行うことで早期治療へつなげています。

以上の注意点や検査をもとにスタッフ一同患者様のシャント管理を行っています。非透析日は患者様にもご協力いただき、シャントを長持ちできるように管理していきましょう。注意点や検査などでご不明な点があればスタッフにお声かけください。

■ 医療連携相談室

TEL 078-918-1512 FAX 078-918-1725
平日 9:00～12:00 14:00～17:00
土曜 9:00～12:00
担当 井口 西村 古門 上野

編集・発行

医療法人社団 仁恵会 石井病院 広報委員会
〒673-0881 明石市天文町1-5-11
TEL 078-918-1655 FAX 078-918-1657
<http://jinkeikai-group.or.jp/ishii/>